

第14回 上野焼秋の窯開き  
**五感で満喫した陶郷上野の魅力**

「上野焼秋の窯開き」が10月23日から3日間、ふれあい交流会館と協同組合の16窯元で開催されました。テレビや新聞で取り上げられた影響もあり、3日間で7千人が来場。参加窯元の新作披露のほか、ふれあい市では名物の猪汁300食が無料で振る舞われ、秋の上野路で掘り出し物を求めた陶芸ファンは、窯元めぐりと郷土料理を同時に楽しんでいました。



↑ お目当ての品を見つけた陶芸ファン、福岡市からのバスツアーも好評でした。

↓ 手に汗握ったスタートの数秒、保護者たちが見守る沿道にも緊張が走りました。



第4回 福智町ふれあいマラソン大会  
**寒風と声援を背に河川敷を駆け抜けて**

福智町子育て連主催のふれあいマラソン大会が11月15日に彦山川・中元寺川合流点河川敷で開催されました。町内の小中学生86人が参加し、学年や男女に分かれた8部門で健脚を競いました。沿道からの温かい声援を背に、寒風を受けながらも全力で河川敷を駆け抜けた選手たち。息を切らして一心にゴールを目指すその姿に、大きな拍手が送られました。

↓ 10年後に資格を得る八段審査に向け、基本を意識した練習を重ねる中山さん。



中山正和さんが剣道七段に合格  
**地道な修練で全国審査の難関突破**

全日本剣道連盟の剣道七段審査会が福岡市で行われ、中山正和さん(弁城)が見事合格を果たしました。全国から1046人が挑んだ審査で、合格したのはわずか66人。毎朝4時に起床して行橋市で練習を重ね、合格率6.3%という狭き門を3回目の挑戦で突破した中山さんは「後輩の昇段の力になれるよう共に稽古したい」と、後進の育成にも力を注いでいます。

ちくまる農園収穫祭  
**初収穫で響いた園児たちの歓声**

金田駅構内の遊休地を利用して整備された「ちくまる農園」が初めての収穫を迎えました。苗を植えた金田保育園の園児56人が10月20日に招かれ、約260㎡の農園から軽トラック1台分のサツマイモを収穫しました。「駅員さんのおかげでこんなにたくさんとれた」と園児たちは大喜び。今年、小さな心はずませた農園は、来年度さらに拡充される予定です。



↑ 線路沿いにある農園、晴れ渡った空に園児たちのにぎやかな声が響きました。

↓ 血のにじむような体験談もユーモアを交えて伝え、元大横綱のスケールの大きさを示した九重親方(左)。



大人の背中実践プログラム  
**夢に挑んだ元大横綱の精進**

田川青年会議所主催の青少年育成事業「大人の背中実践プログラム」が、11月14日に福智町地域交流センターで開催されました。「千代の富士」として幕内最多勝星をはじめ、数々の金字塔を打ち立てた九重親方を講師に招き「夢」をテーマに講演。フリーアナウンサーの山本文郎氏との対話形式による貴重な体験談に250人が耳を傾けました。肩の脱臼などの弱点の克服や勝負の厳しさ、夢をかなえるための強い思いなど、会場は元大横綱にしか語れない「夢」に向けたメッセージを受け止めました。

市場小で人権教室  
**未来への希望と交流で高めた人権意識**

「人権の花運動」の本年度指定校となっている市場小で11月10日に「人権教室」が行われました。主催する法務局と人権擁護委員による「手作り紙芝居の読み聞かせ」や、児童たちが栽培したひまわりの種にメッセージを添えて空へと放った「エコ風船飛ばし」が行われ、心と心のふれあいや未来への希望をとおして、子どもたちの人権意識をはぐくみました。



↑ 子どもたちと心を通わせた人権キャラクターの人KENまるくんとあゆみちゃん。

↓ 彦山川と中元寺川の合流点河川敷で「給水」「送水」「放水」の連携を高めた団員。



福智町消防団統一訓練  
**消防魂と技術をつないだ初訓練**

福智町消防団で初めてとなる統一訓練が、11月8日に合流点河川敷で行われ、232人の団員と車両16台が出動しました。水利から離れた現場や山林での消火活動を想定した内容で、車両間を迅速にホースで中継。3班に分かれ、無線などで連絡を取りながら、河川合流点から人見橋付近まで最長約600mを7台の車両とホース24本で見事につなぎ、放水しました。